

やまと 民俗への招待

1990(平成2年)
 7月31日未明、大和高
 田市片塩町の石園座
 多久虫玉神社(竜王宮)
 は、何者かの放火によ
 つて、本殿拝殿とともに
 1枚の大型絵馬を失
 った。江戸時代末期の
 1830(文政13)年に
 奉納された「おかげ
 参り」の様子を描いた
 絵馬だった。

文政13年は、江戸時
 代流行した伊勢神宮
 の集団参詣が発生
 した年で、高田を東西
 に貫く横大路は通り道
 だった。道沿いの人々
 は無料で食べ物などを
 支給する「施行」を

した。
 横長の大画面に、横
 大路を徒步で伊勢に向
 かう道者や馬に乗る人
 や駕籠が行き交い、大
 層な賑わいぶりだ。中
 央には、三味線と太鼓
 の囃子に合わせて餅つ
 きをする人々や漬物草
 履を求める人々が群れ
 をなしている。左端に
 は威勢よく米俵を運び
 込む男たちも描かれ
 いる。太鼓を打つ男は
 手拭いで頬被りをして
 いるが、「げ」の文字
 が見える。「おかげ」
 字も見える。「ぬけま
 の一部だろう。餅をつ
 くり」かもしれない。
 和田桃景という地元



焼失前のおかげ参り絵馬（部分）。
 縦120cm、横174cmの大型絵馬だった
 =筆者提供

焼かれた庶民の歴史

絵師の作で、人々の表
 情は明るくはつらつと
 して、どよめきまで聞
 こえてくるようだ。
 この絵馬に出会った
 のは、横大路の歴史の
 道調査だった。その歴
 史的民俗的な価値か
 ら、1986(昭和61)
 年3月に県の有形民俗
 文化財に指定された。
 この年、はくらく止め
 処置をする予定だった
 のが、その寸前に鳥有
 に帰してしまった。早
 朝知人から連絡を受け

て駆け付け、呆然と焼
 け跡を見つめながら、
 絵馬が置いてあつた辺
 りの写真を撮った。
 その後、地元で絵馬
 を描いていた松岡弥三
 郎氏が、残された写真
 を元に絵馬を復元し
 た。国立歴史民俗博物
 館(千葉県)にも模写
 が展示されている。お
 かげ参りをする人々に
 報謝することで、神の
 加護を得ようとした近
 世大和の人々の心意
 は、模写を通して現代
 に伝えられている。

(奈良民俗文化研究所
 代表・鹿谷勲)
 ||隔週掲載